

富士山の右側の点線内に位置するのが、青木ヶ原樹海

青木ヶ原樹海には大小約50個の洞穴があるといわれるが、その中で最大の「富士風穴」の入口

■洞穴の問い合わせは、  
山梨県富士河口湖町役場 生涯学習課  
☎0555-72-6053

洞内に見られる  
1mもの珍しい「氷筍」  
富士風穴

現地ガイド/  
富士エコツアーサービス・福田健史氏

県道鳴沢富士宮線の途中から  
精進湖登山道に入って約2km。  
樹海内そこは「天然記念物富  
士山原生林及び青木ヶ原樹海」

となっており、異様な原生林光景が広がっている。  
登山道の脇に「富士風穴」の位置を示す看板が立っていた。そこを50mくらい樹海に入ると、人間が口を開けたような荒々しい風穴があった。地表から5mほど下ったところが入口だ。幅10m、高さ10m、奥行き約200mで、樹海内最大の洞穴である。洞内は、なだらかに下って行くがしばらく進んだところが平坦になる。ここまでくると深い洞穴の中は真の闇が存在するというのが実感だ。温度は0度に近く、肌寒い。足元は氷が張って滑りやすい。その先に、ライトをあてると氷筍が見えた。天井から落ちてくる水滴が凍って、タケノコが伸びるように、氷が大きくなる。毎年4月、5月ごろがピークで、円形の氷筍は1mになることもある。あたり一面にできる氷筍はライトを当てると青色く光り、壮観という言葉がピッタリだ。  
夏場になるとやや解けてしまいが、それでも半分ほどは残っている。ここから、さらに深部まで、凍りついた洞内を、約100mほど進むが、一面氷の世界。地底のミステリアスな雰囲気がかもしだす、洞穴である。  
(入洞の場合、届出が必要)

あおきがはらじゅかい

山梨県

# 魔界・青木ヶ原樹海に 広がる洞窟をゆく



## 富士山北西部に 群れる熔岩地帯

1100年前の富士山噴火  
によってできた洞穴

富士山北西部の麓に広がる青木ヶ原樹海。貞観6(864)年の噴火によって熔岩が流出して固まった。その広さは25kmにのぼる。噴出後、約1100年がた



富士山麓に広がる青木ヶ原樹海は、木々がうっそうと繁り、この原生林に入ると方向感覚がうせる

つが、表面に流出時の原形をほぼ保っているが、そこにアカマツやヒノキ、ツゲ、ブナ、ミズナラなどが生えている。ところが一般の山林では木は下へ伸びるが、この樹海の木々は熔岩が地面をはっているため木の根は横根といって横へ伸び、複雑に

からみあっていて独特の風景を織りなしている。  
それだけに樹海内は、密林の様装で静寂そのもの。東西南北の方向すら分からなくなる。熔岩からは磁気が発生している方向針を狂わす。ここ十数年、樹海内での自殺者は絶えない。地元富士吉田署や消防団が協力して1年に1回、樹海内を探索しているが、平成23年は、約100体が発見されている。不況が長びくわが国だが、ここ数年の自殺



溶岩の上に見える木々は、「横根」といって、根を横へ広げている

者も増えているという。  
熔岩流出時にできた洞窟は、大小合わせ、わが国の天然記念物に指定されているのは13穴にのぼる。  
青木ヶ原に広がる風穴は、どうして形づくられたのか。一般的に考えられるのは、噴火時、各所から押し出した熔岩の内部がガス体を含み、それが外部からさめて収縮する際、内部はまだ高熱のため、外部からの圧力によって外皮の弱い部分が破れ、ガスが溶岩を吹き出した後の空洞だというもの。確かに、どの風穴を見ても洞口は荒々しく削られた自然のままだ。  
魔界・青木ヶ原樹海に房わしい神秘的なたたずまいである。



洞穴の中ほど。ここからさらに奥へ入っていく

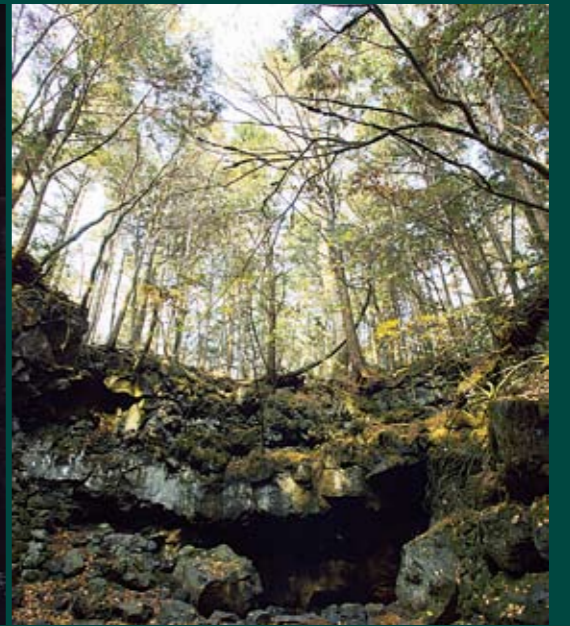
自然の起伏に富んだ竖穴  
**鳴沢氷穴**

この鳴沢氷穴は、青木ヶ原樹海の東側に位置している。洞内は二つのトンネル式になってい

るのが特徴だ。これは10年前の富士山の側火山・長尾山の噴火の際、古い寄生火山の間を灼熱に焼けた溶岩流が流れ下ってできたもの。幅11m、高さ1m、3m、総延長153m。環状になっているため、順列どおり歩くと出口へ出る。入口から階段を下る竖穴洞穴だが、入ってすぐ右左に古井戸と称する場所がある。ここは氷が一面に張っていて、江戸時代には、この氷を切り出して馬車



入口から、50mほど入ったあたり。案内人の福田さんが、外からの光と合わせて神々しい風情だ



富士風穴の入口。すぐに地下へ降りるかたちになる

で江戸まで運んだというほど。まさに天然の冷蔵庫だ。地底の温度は低く、天井から落ちた水滴が固まった氷柱は4月ごろに最高50cmほどに成長する。洞内は、一年中低温が続く。夏はヒンヤリする。この低温を利用して、明治時代から周辺の農家の農作物の貯蔵庫だったり、養蚕にも活用された。洞窟がこのように地域産業と結びつ



鳴沢氷穴の最深部へ降りる

いた形は珍しい。しかも、山梨県も低温を利用した県営種子貯蔵庫をつくっていた。いまも、洞内には貯蔵用の棚が展示されており、貯蔵していた当時の状況が見られる。好奇心に満ちたアドベンチャーワールドといえるかもしれない。(入場料/大人280円、小人130円)



最深部はかなり狭くなる



鳴沢氷穴の底部は水がはっている

夏でも氷柱が見られる  
**富岳風穴**

国道139号のすぐ南に位置し、立地が便利なことから入洞する人たちは多い。ここは全長約100m、入口から20mの地点で80mの支洞もある。洞壁は全面にわたって溶岩鍾乳石が表われていて、縄状溶岩も見られる。夏でも氷柱が見られるなど、かつては低温を利用して山梨県営種子貯蔵庫があったが、今はない。(入場料/大人280円、小人130円)



富岳風穴の洞内はヒンヤリしている



洞内は床一面が凍り、ヒンヤリしている



冬の間、天井から落ちた水滴が凍り、まるで筒が育つようになった「氷筒」





竜宮洞穴は、崩壊がひどいため今は立ち入り禁止

富士山巡拝の  
霊場として  
**龍宮洞穴**

富士北麓の西湖畔の青木ヶ原に位置し、全長60mの洞穴。洞口付近には、ほぼ南北の溶岩溝が発達しているのが特徴だ。洞穴近くに、賽のうみ(龍宮)神社や石像などもあり、古くは富士山道者巡拝の霊場として知られていた。今は西湖の祭である龍宮祭の神事が8月2日に、この洞穴で開かれている。大正時代には雨乞いの行事も行われ



青木ヶ原樹海内の洞穴で、最大規模の西湖蝙蝠穴



西湖蝙蝠穴の奥は温暖なため、コウモリたちに好まれる

コウモリの  
生棲する洞穴  
**西湖蝙蝠穴**

西湖畔の青木ヶ原にある溶岩洞穴。総延長は350mあり、青木ヶ原樹海中、最長である。表面は入口付近を除き、比較

的良好に溶岩鍾乳石面が発達し、大広間の天井は蒲鉾形をしている。  
ここは他の洞穴とは異なり、夏でもあまり寒冷を覚えず温暖で、結氷することはない。そのため多数のコウモリ群が冬眠の場所としている。ウサギコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリが見られ、天然記念物に指定されている。近年はモモシロコウモリも生棲している。  
(入場料/大人280円、小人100円)



西湖蝙蝠穴は、ちょうどこの西湖の湖底にある

青木ヶ原樹海の洞窟をガイドする「富士エコツアーサービス」は、10人のガイドがいて面白、楽しくガイドしてくれる。  
コースは2つあり、Aコースが西湖蝙蝠穴でコウモリを観察したあと青木ヶ原樹海を巡る。  
Bコースは、樹海内のミステリー洞「富士風穴」に入洞してから大室山を回る。時間は約4時間。予約制。  
A・Bコース共、料金は大人6000円、中学生4000円、小学生3000円(昼食付)。

**青木ヶ原樹海の洞窟ガイド**

〈富士エコツアーサービス〉

■問い合わせ

☎0555-89-2020



氷筈は夏場になると溶けてしまい、小さくなる(ガイドの福田健史氏)



本栖湖

崩落の危険が大きい

**本栖風穴**

富士河口湖町本栖にある洞穴で、第1、第2の風穴で構成されている。全長330mと長さを誇る。しかし、洞壁にほとんど原型をとどめず、洞底面には天井からの落石が散乱し、危険な状態だ。また溶岩中に含まれる火山性ガスも一部から発散していることから、入洞は禁止されている。



本栖風穴の入口